令和7年度　愛知県地域コーディネーター等研修会

学校を核とした地域づくり・まちづくり

# 地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支える新しい協働のカタチ

国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
コーディネーター　　大坪　直子



## 自己紹介

- 元神奈川県立高校教諭　（～2017年3月）
  ボランティア活動部活動の顧問
  高校生のボランティア学習企画（単位認定・協働メニュー等）
  神奈川のふれあい教育推進連絡協議会
  若者のボランティア活動の推進とボランティア体験キャンプ
  2007年度：さわやか福祉財団で1年間研修
- 日本ボランティア学習協会　常任理事
  若者のボランティア学習・日本ボランティア学習学会開催等
- （公益財団法人）さわやか福祉財団　ボランティア職員（2017年～）
  「居場所ガイドブック」を作成、地域のつながりをつくる活動の手引き
- （一般社団法人）ふらっとカフェ鎌倉　理事（2017年～）
  食を介した居場所活動（地域活動の実践）・フードバンク・フードパントリー事業
- 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター　コーディネーター（2018年～）
  地域学校協働活動・ボランティア活動推進

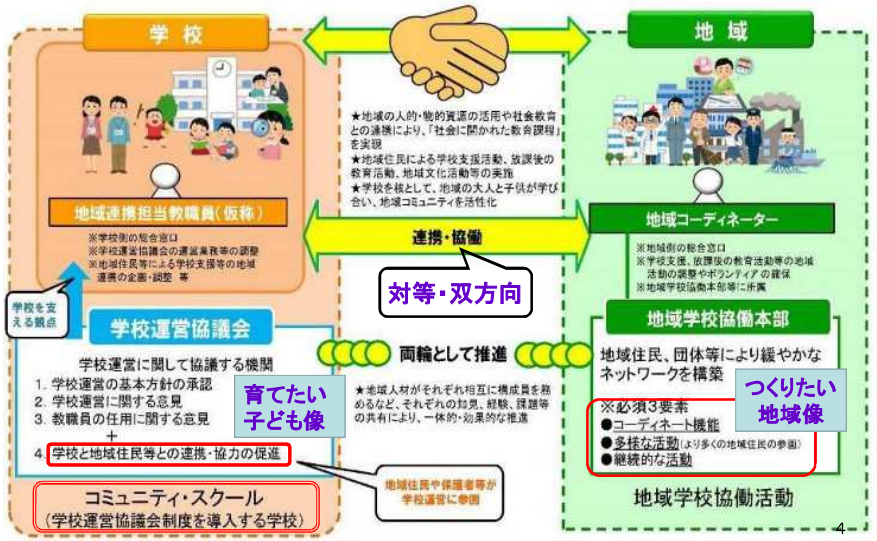


## 子どもたちを育てること・地域をつくること
## 地域学校協働活動がめざすこと



## 学校と地域の効果的な連携・協働と推進体制（イメージ）

ーパートナーシップの構築による新しい時代の教育、地方創生の実現ー



# 地域学校協働活動

## 地域全体で未来を担う子どもたちの成長を応援する活動【支援】

地域全体で「こんな子どもたちを育てたい！」という思いの共有

↓

学校を中心に新しいつながりができる

↓

地域の力《地域の教育力》が生まれる

↓

未来の地域の担い手を育つ

〔子どもたちの育ちを〕なぜ、地域が担うのか

⇩

地域の10年後を想像してみましょう

ボランティア

「いつまでも住み続けたい地域を地域みんなでつくる」

学び合い

未来の担い手を育み、地域をつくる活動【協働】

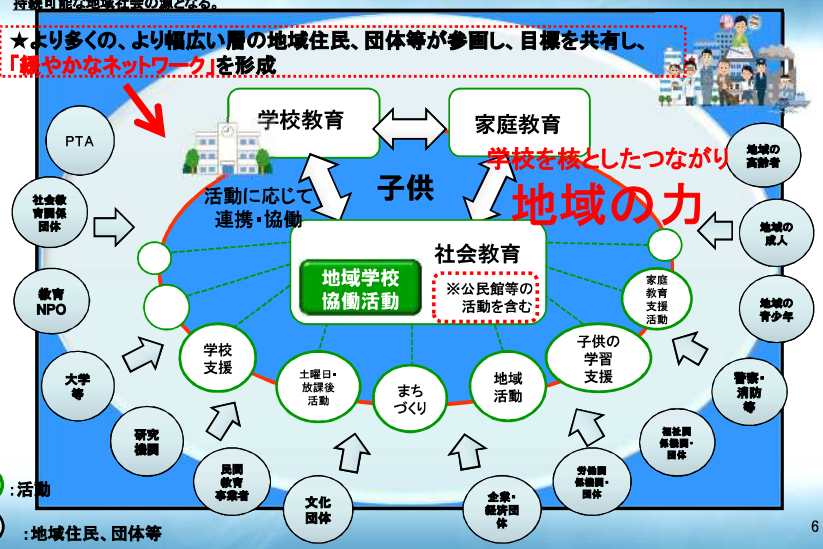


## 地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み（活動概念図）

◎ 次代を担う子供に対して、どのような資質を育むのかという目標を共有し、地域社会と学校が協働。

◎ 従来の地縁団体だけではない、新しいつながりによる地域の教育力の向上・充実は、地域課題解決等に向けた連携・協働につながり、持続可能な地域社会の源となる。

★より多くの、より幅広い層の地域住民、団体等が参画し、目標を共有し、「緩やかなネットワーク」を形成




○：活動

○：地域住民、団体等



# 学校支援活動から地域学校協働活動へ

平成27（2015）年　中央教育審議会答申

「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方や今後の推進方策について」

「支援」から「連携・協働」へ　3本の柱

○地域とともにある学校

学校観の転換・地域と一体になって子どもたちを育む

○子どもも大人も学び合い育ち合う教育体制の構築

地域の諸団体が連携、学校・家庭・地域の相互協力、地域全体で学びを展開する

○学校を核とした地域づくりの推進

学校を地域のつながりの場ととらえる

平成29（2017）年　社会教育法の改正

教育委員会が地域住民等と学校との連携協力体制を整備

「地域学校協働活動推進員」の委嘱に関する規定を整備



# 連携・協働で育つ子どもたち

【支援によって育つ子どもたち】地域に愛される子どもたち

- 地域の大人の愛情を受けて、自分に自信を持つ子ども
- 地域の愛情を受けて他者を思いやる子ども
- 地域の大人への信頼感を持つ子ども
- 自分の故郷に誇りを持ち、故郷の一員であると自覚する子ども

✚

【連携・協働によって育つ子どもたち】子どもたちの学びの変化と成長

＊地域で学び、多様性を理解する子ども【多世代・多様・たくさんの出会い】

＊体験的に学び、ボランティア活動により心が成長する子ども

「自分に向かう心」・「他者に向かう心」・「社会に向かう心」の成長

＊子どもたちの学びの変化：コミュニケーション力・課題意識・企画計画力・調整力・発信力

☆自己効力感【私たちは地域を変えられるという意識】

⇩

地域で育てたいこれからの子どもたち

⇩

これからの地域に必要なことを考える機会

## 地域学校協働活動の実践として

＊取り組み内容【地域を学びのフィールドにする】
地域の宝を活用する／地域課題に取り組む

＊活動による連携が地域のつながりになる
＊学校間の連携
＊社会教育との連携



## 国連SDG s

国連持続可能な開発目標

だれひとり取り残さない世界をめざして！

SDG s は子どもたちにとって大切な学び

**Think Globally Act Locally.**

地域の宝を知る

地域の課題を知る



## 地域の教育資源【地域の宝】を活用した学習プログラム

| | | |
|---|---|---|
| 産業・企業 | ： | 伝統産業、地場産業、各種企業、商店街<br>農業・酪農・漁業・林業など |
| 文化・歴史 | ： | 伝統芸能・料理、史跡、神社・仏閣など |
| 自然・環境 | ： | 森林、河川、海、生物・里山など |
| 人・団体 | ： | 文化人、経済人、社会福祉法人、企業<br>まちづくりの会、各ボランティア団体、NPO |

**コーディネートのポイント**

**地域は学びのフィールド！**

学び合い

当たり前だけど当たり前ではないことの気づき

・地域の教育資源の理解は地域を知る人たちの役割
・既存の行事や活動の意味を問い直す【意識化・価値づけ】
・学校のカリキュラムに沿ったコーディネートとプログラムづくり
・中学校区内の連携・自治体単位での連携
教育資源やプログラムの共有・相互提供など



## 地域の課題を地域で考える

地域の中に学校はある…

- 少子高齢化・人口減少・認知症高齢者などの課題
  地縁のつながりの希薄さ
  ⇒地域福祉は子どもから大人までの課題
- 安心・安全・防犯・防災
  ⇒子どもや高齢者の見守り・防災訓練での協力
- 伝統文化・産業などの衰退
  ⇒後継者の育成・文化産業の差別化
- 環境問題・ごみ問題
  ⇒子どもとともに学び発信する
- 地域の魅力の発信力不足／地域の誇りの喪失
  ⇒地域学習【総合的学習・探求】の中での取り組み

## 防災活動も地域の様々な組織が連携することが効果的

赤字：連携団体

- 地域との宿泊防災訓練を中学生がリーダーとして運営(HUG：避難所運営ゲーム)
- 高校生が中心になって中学校・支援センター・地域自治会と合同の津波 想定訓練
- 防災ハイキング(地域活動をするNPO団体・鉄道会社・地域の学校など)
- 津波が来る前に高いところに逃げるプロジェクト(鎌倉市内の企業と地域のNPO団体)
- 特別支援学校と地域高齢者施設合同の避難訓練
- 自治会と連携した地域防災拠点訓練と小学校の授業参観(保護者)をセット実施
- 「ふるさとまつり」(小学校で開かれる市区のイベント)の中で防災備蓄庫内の防災食料を利用した料理の提供
  ⇒小学校は地域の防災の拠点であり、まちづくり(地域)の核であることを意識し、地域のつながりにつなげる(助けあいのある地域)
- 大学・大学生団体による地域や学校での防災訓練プログラムの実施
  ＊全国学生防災ネットワークなど

連携や協働する組織や団体が多様にあるので、より現実的な活動になる



## 学校間での縦横の連携事例

- 高校生が小学生防犯教育・高齢者犯罪被害防止のための寸劇
- 地域との宿泊防災訓練を中学生がリーダーとして運営(避難所運営ゲーム)
- 高校生が中心になって中学校・支援センター・地域自治会と合同の津波想定訓練

防災・防犯

- 地域の小学生とふれあう「異年齢交流」事業
- 幼・保・小・中・支援学校分教室・町内会・自治会とともに「地区交流教育推進会」を組織し、交流事業を推進(高校生「地域交流委員会」の設置
  ⇒防災デイキャンプに参加・クラブ交流・小学校の運動会・短歌交流など

交流による地域づくり

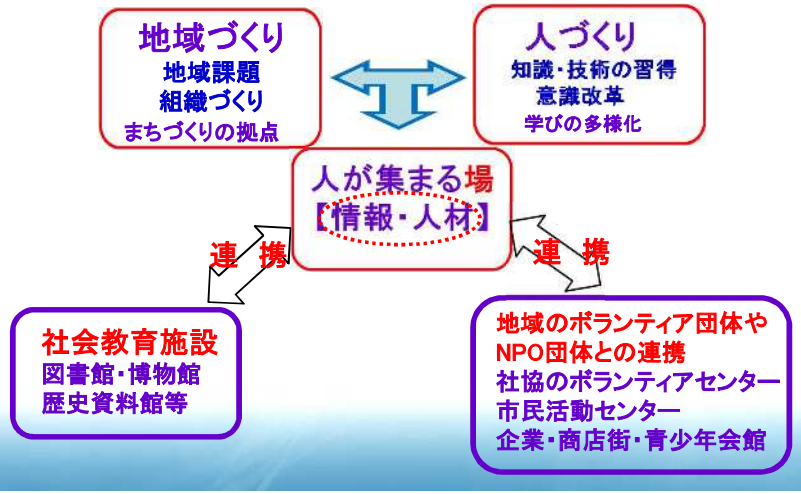
- 工業高校で中学生向けのクリエイティブ講座(レゴロボットづくり体験)
- 工業高校で近隣の小学生対象の出前授業
  ⇒木材で作ったキューブパズルで立体パズル製作・自分の歩幅を知ろう
- 商業高校が小学生を運営する「キッズビジネスタウン」づくりに大学生や地域の大人とともにサポート(小学生対象のミニインターンシップを企画)
- 国際科の高校生が小学校の英語の授業の出前講座

専門分野を生かす活動



## 公民館やその他社会教育機関との連携について

### 公民館の2つの機能と「場」の意味






## 公民館との連携・生涯学習との連携

◆ 多くで開催されている講座

高齢者対象の健康講座／　子育て支援の講座／女性向け健康講座
子ども向け科学講座・モノづくりや体験講座(夏休み自由研究系講座)
歴史・文化・伝承等の教養講座／　食文化を含む食育講座・料理教室
防災・防犯講座／モノづくりなどの教養講座
スマホやPCの活用に関する講座／各種スポーツ・レクレーション等の講座

＊対象者ごとのニーズに応える講座
　⇒世代や立場を超えた交流につなげる
＊講座での学びを活かすための活動
　⇒ボランタリーな活動への発展
＊子どもたちにとって学校以外の学びの可能性
　⇒地域の宝を学ぶ・歴史や産業など
＊開かれた教育課程(カリキュラム)を学校と連携してつくる
　⇒地域を学びのフィールドにする
＊地域の子どもたちができること
　⇒子どもたちの学びを発表する場をつくる

## 推進員（コーディネーター）の活動

＊地域の力と子どもたちの力をつなぐ活動
＊人材の生かし方
＊ボランティア活動の魅力を感じる活動とは
＊大人も子どもも学び合い活動をめざす



## コーディネーターの役割

【コーディネーターの役割】

1. 全体の調整・総合・進行などを担当する
2. 人と人とのつながり・それぞれの役割をつくる

人を活かす⇒　活動の楽しみを作り出す

コーディネーターは見守り、支援する人

地域の人・子どもたちの力を生かして

【コーディネーターに必要なこと】

1. 地域・学校の思いを知る
2. 地域の資源や課題を熟議し、共有する
3. 連携や協働ができる団体・組織・人をマッチングする
4. 協力できる地域の団体・組織・人をつなぐ
5. 地域資源や情報の引き出しを共有する
6. 子どもを理解し、子どもの力を信じる

いろんな世代の多くの人が関わる

地域の連携は地域の力

主体的な活動を引き出す



## 【コーディネーターの具体的な活動】

【つなぐ】

学校運営協議会・地域学校協働本部との連携協働体制

地域の各種団体・学校・社会教育施設など

【語り合う】熟議

＊めざす活動　＊めざす地域づくり　＊育てたい子どもたち

＊学校の魅力と地域の魅力探し　＊学校課題と地域課題

＊学校を核とした緩やかな地域のネットワークづくり

【活動のコーディネート】

計画立案・情報収集・地域の施設・団体との連携・協働・日程調整

ボランティアの募集・登録・調整・研修・ボランティア活動の指針（心得）

記録・広報・ 研修会・学習会



## ボランティア人材（人財）の活動

学校支援活動実践例

| | | | |
|---|---|---|---|
| 学習 | ゲストティーチャー型（専門的）<br>教科指導・総合的学習・生活科<br>伝統文化芸能<br>クラブ活動・読み聞かせ | ＋ | アシスタント型（一般的）<br>教員補助（TT・補習）・教材作成補助<br>校外学習の引率<br>通学安全指導 |
| 環境 | 施設メンテナンス（専門的）<br>施設の補修・植木の剪定<br>飼育小屋つくり・パソコン管理 | ＋ | 環境サポーター（一般的）<br>図書室の運営整理・花壇整備<br>パトロール・清掃草取り |

専門的人材 ＋ 一般的な人材 ⇨ 幅広い人材 活動の広がり

～ボランティア参加のポイント～

・活動の継続性をめざす
・より多くの地域住民の参画のチャンスをつくる

## ボランティアをどう集めるか

【人～どんな人にどのように協力してもらうのか～】

・子どもの保護者＝PTA・おやじの会・PTAOB会

・高校生/大学生/ 専門学校生などのボランティア活動

小学生が幼稚園、中学生が小学生、高校生が小中学生等…

専門知識を活かした学習支援・部活動指導・大学生の教職課程受講者

・団塊の世代/高齢者（知恵・知識・体験・技能など）

・組織とのつながり：社会教育施設（公民館・図書館・博物館など）

地縁組織（自治会・老人会・婦人会・商店街）

企業・NPO・社会福祉法人・医療法人・NGO・ボランティア団体

縦の関係をつなぐ

世代をつなぐ

学びを活かす

地域をつなぐ

・人材バンク（データベース）の作成・登録制
【学校単独／中学校区／市町村区内で作成】 → 活用しやすい形で作成 効果的に組み合わせて活用

ポイント：ボランティア活動による自己実現、喜びを知ってもらう



## 協働活動ボランティアの楽しさ・喜びを意識するための工夫
### ～ボランティアさんの声から気づいたこと～

（ボランティア）学校支援を通して子どもたちの感謝の声が励みになる

自分の目標や意欲を持つことによる「自己実現」

活動を通して達成感や自分の役割を持つことによる自信につながる

→（学校）児童生徒の振り返りや感想文・感謝の会などを実施

活動場面の掲示板作成。活動報告のお便り ⇨ 活動を見える化・発信する

（ボランティア）活動を通じた交流・仲間づくり・居場所づくりが楽しみ

→（学校）ボランティアルームの設置・教職員とのコミュニケーションを図る

（ボランティア）児童・生徒たちとともに学校目標や地域課題について考え活動できる

→（学校） 地域の魅力や課題を教材として学ぶカリキュラムの作成



## 子どもも大人も学び合い育ち合う
### 協働活動でボランティアの楽しさ・喜び

**大人たちにとって…**

活動を通じて達成感、自己実現、仲間づくり、交流の楽しさがある
子どもたちとともに地域課題にともに取り組む意欲が出る
緩やかなネットワークで地域のつながりを意識する

**子どもたちにとって…**

ボランティア体験や体験学習によって生きた学びを得られる機会を得る
地域の一員として地域に対する愛着を持つ
地域の中で活躍できることが自信につながる

活動のあり方は…
地域の方々が活動への参加を楽しみにする活動
児童生徒が地域で活躍できて輝けるチャンスになる活動



## 活動事例

横浜市立幸ケ谷小学校　幸ケ谷共育倶楽部
～学校目標の達成をめざす活動・「ボランティアのこころえ」～

横浜市東山田中学校区地域学校協働活動
～中学校区で9年間のカリキュラムを作成、活動を通じて地域のネットワークづくり～

**神奈川県立あおば支援学校　あおばまる**
～地域とともに歩み、地域に貢献する特別支援学校の活動～

子どもたちの声から生まれた活動
～阿蘇市立一之宮中学校・南阿蘇村立久木野小学校～

熊本県西原村立小・中学校
～子どもたちの成長に合わせた体験活動「ふるさと塾」～

熊本県阿蘇市立内牧小学校
～関係機関とともに育む児童の生きる力～

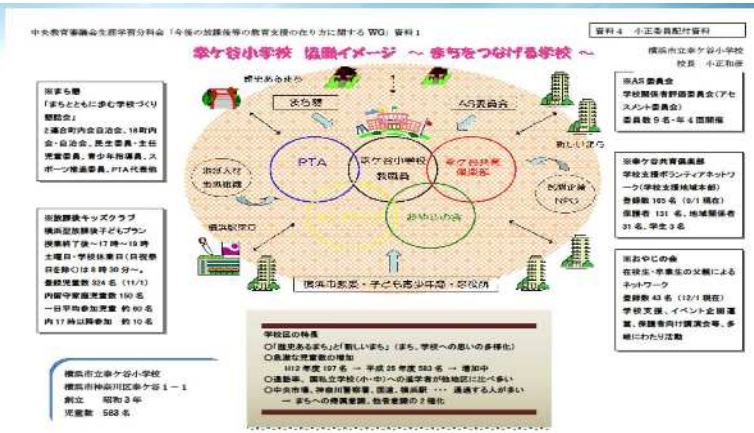
岐阜県白川村立白川郷学園
～地域と学校が「つながり」「地域に開かれた・地域とともにある学校」をめざす～

島根県浜田市「放課後あそび隊」の活動
～遊びは子どもたちの権利、遊びを通じた小中学校と地域のつながり～

群馬県伊勢崎市立　剛志学府の活動
～小・中学校と公民館を「学府」として協働できる体制を活用～

＊高校生の活動からのヒントとして

こうがやきょういくくらぶ
## 幸ケ谷共育倶楽部（横浜市立幸ケ谷小学校）




【活動内容】＊学校地域本部でユネスコスクールとしての活動をサポート
学習サポート／安全見守り（日常の学校生活・校外学習全般）
読書サポート（ブックママ）／栽培緑化環境／土曜講座／学校イベント



## 幸ケ谷小学校　ボランティアのこころえ

- 学校の教育方針を尊重しましょう
- 子どもたちには分かりやすく話しましょう
- 子どもたちには公平な態度で接しましょう
- ひとりひとりの人格を尊重し、「ほめる」姿勢を持ちましょう
- 学校内で知りえた秘密事項は固く守り口外しないようにしましょう
- 学校内で知りえた秘密事項は固く守り口外しないようにしましょう
- 学校へのクレームや苦情をいうのではなく、子どもたちのために何ができるのかを「提案」しましょう



## 幸ケ谷共育倶楽部（横浜市立幸ケ谷小学校）

**【地域学校協働本部の体制】**

- コーディネーター3名（うち2名はPTAOB、1名は地域代表）運営事務局10名
- ボランティア登録をしてもらう（写真付き登録証の作成）保護者・地域の方（含むOB）
- 登録者に「らくらく連絡網（無料アプリ）」を使ってコーディネーターから連絡。
- 学年の枠を超えて呼びかけ多様な活動への参加も促す。
- 学校のカリキュラム・授業計画に沿って参加の呼びかけ。年間800～900件（延べ数）
- 登録300名（1回参加～50回以上の参加まで）

**【学校・地域コーディネーターの役割と運営のコツ】**

- 教員のサポートは子どもたちにとってプラス、ということを発信。
- ボランティアの方にとっては、励みになるように工夫。
- 校外のさまざまなつながりを活用できるよう、コーディネーターは「情報の引き出し」が大切。そのために、他校のコーディネーターと連絡会を作り、常に情報交換。
- NPO団体と協力して「学校地域コーディネーター・フォーラム」
- 運営のために、特技や専門技能がある人（PCや広報物のデザインなど）の協力
- 活動の記録…活動実績を見える化する報告書の作成（継続性・広報の効果）



## りんごの棚づくり

6年生「福祉」にかかわる授業
「読書バリアフリー」について学ぶ
さまざまな障害者を対象とした本を紹介

視覚障害…点字図書・大活字本・布の絵本・さわる絵本
DAISY（デジタル録音図書）音声DAISY・マルチメディアDAISY
電子書籍
学習障害等…LLブック（ピクトグラムや写真・図などで理解を助ける）
スウェーデン発祥の「りんごプロジェクト」を学び、視覚障害者とも交流

⇩

児童から「学校図書室に『りんごの棚』を作りたい」という声
クラス代表が図書司書に相談し、作成への協力依頼
棚の作成に必要な看板・飾り付け・本の紹介ポップを作成
⇒喜び・活動を広げたいとの願い
自分たちの思いを形にできた達成感・自己肯定感

## 東山田中学校区地域学校協働本部の活動
### 横浜市立東山田中学校と3つの小学校

**地域と学校を結び、学校教育活動を支援し、**
**地域・学校ともに子どものみらいを育てる**

【活動のポイント】
・地域学校協働本部は学校の教育活動を支援するため、地域住民の学校支援ボランティアなどの参加をコーディネートする地域につくられた「学校の応援団」
・学校協働本部は中学校校内のコミュニティ・サロン
⇒子どもも大人も一緒に集まる交流の場、学びの場

【主な活動】
・コミュニティーカレンダー作成（地域の情報を共有）
・やまたろうネットの運営（小中学校や地域の施設の情報）
・学校支援ボランティア講座開催（後継者育成）
・社会科見学や宿泊体験付き添い（研修成果）
・水泳授業の見守り
・中学生対象の赤ちゃんとのふれあい体験
・東山田中学校キャリア教育（小中学校9年間のプログラム）
・学級支援・学習支援活動



## 東山田中学校区地域学校協働本部　キャリア教育と活動の心得

【東山田中学校キャリア教育】

1年　プロに学ぶ　約30名のあらゆる職業の方をお招きして、「働く」ということや、体験を語ってもらう
2年　職場体験　企業　約100事業所　3日間の「仕事経験」で、社会のルール・マナーを学ぶ
まとめとして、リクルート社のCSRにより「タウンワーク東山田中学校版」を製作
3年　模擬面接　高校受験を間近に控え、大人ときちんと話すことを目的とする。
なるべく地域の重鎮の方にお願いすることで、実際の面接に緊張感

キャリア交流会　【地域交流の場】　年明けにキャリア教育に関わっていただいた地域の方、企業、教員、保護者等を　一堂に会し、異業種交流を図るとともに意見交換を行う。
⇒　活動をきっかけとした地域のネットワーク

【活動の心得】
- 「こどものために」の視点、原点を忘れない
- 学校のニーズを大切にする
- ボランティアの輪を広げる
- 様々なイベント、活動を通じてコミュニケーションの輪を広げている。地域には多くの人材が埋もれている。その掘り起こしを日常のコミュニケーションを通じて把握
- 活動の継続のためにも、ボランティア同士のコミュニケーションを大切に



## 神奈川県立あおば支援学校　あおばまる

**基本理念は「思いを紡ぐ　優しいあおば」**
子どもたちの成長のために、誰もが価値ある人として敬意をもって受け入れる優しさが大切
地域の人を含め、全ての人の思いを紡ぎ、形にする→協働活動

**学校目標は「地域とともに歩み、地域に貢献する」**
子どもたちのための支援だけでなく、地域の中で生きていくために、子どもたちの力を活かした地域活動を生むことをめざす→コミニティスクール

**あおば支援学校の成り立ち**
2020年4月開校。県立29番目の支援学校。児童養護施設跡地に建設され
地域の中では必要な支援が自然にできる場として受け入れられている
神奈川県が「共生社会実現」をめざして開校
校章なども地域のいろいろな世代の意見を活かし、地元の美術大学生がデザイン。肢体不自由・知的障害の部門がある小・中学校と高校



## 地域学校協働本部「あおばまる」活動のポイント

**1. 地域コーディネーター2名体制**
PTAOB＋地域の教育系NPO団体スタッフ→活動の広がり

**2. 拡大熟議の実施**
学校運営会議（第2回の会議は拡大熟議を体育館で開催し、教職員・保護者
地域の協力団体・地域住民・近隣の学校等、100名以上の参加）

**3. 活動の「見える化」の工夫**
- 協働本部の部屋の入口には「あおばまる」のイメージキャラクター（生徒の作品）
- 教職員用・児童生徒用の入口付近には「あおばまる」からのお知らせ掲示板
- 校長室前には「学校と地域活動の内容」を書き入れた大きなカレンダーを掲示
実施内容を付箋でカレンダーに貼る→年度ごとに活動の充実する様子が分かる
- 地域と学校のつながりを示す「あおば地域貢献マップ」
- 活動内容を学年ごとのカリキュラムとしてまとめた「つながり活動一覧」
- 廊下に拡大熟議のワークショップの成果を掲示

**4. 地域とのつながりの多様性と縦横の広がり**
近隣の大学・高校・小中学校・企業・スポーツ団体・農家・音楽サークル・保護者OB
市資源環境課・NPO団体・たまプラーザテラス・文化センター等々

# 子どもたちの声から生まれた活動
# 熊本県の2つの事例

## ＜生徒を中心にした五者連携の推進＞
阿蘇市立一の宮中学校

### 学校運営協議会と生徒会役員の意見交換会

本年度の学校運営協議会の取り組みに「五者連携の推進」を掲げた。第2回学校運営協議会時に生徒会役員との意見交換会を実施した。生徒会役員と、「困っていること」、「取り組んでいきたいこと」など、11項目について意見交換を行った。生徒の思いを学校運営に生かしたい。

〈意見交換会で出された生徒の要望や意見〉

○「年末のボランティア活動をしたいです」
- 生徒より、「今年も一人暮らしのお年寄りの家の清掃活動（外から）をしたい」と声が挙がった。民生委員に連絡し、希望するお年寄りを把握することにした。協議会の賛同も得ることができ実施することになった。
- 一人暮らしのお年寄りに年賀状を書く。全生徒で取り組んだ。

○「もっと、安心で安全な通学路にしてほしいです」
- 昨年度、「安心・安全部会」で通学路の防犯灯の整備を行ったが生徒より、「まだ通学路に暗い箇所がある」と出された。速やかにPTAと一緒に通学路点検を行った。対策は、次回の学校運営協議会で検討する。

○その他（生徒からの要望）
- 「合唱コンクールに向けてピアノ伴奏ができる人に来てもらいたい」 ・「丸付けのボランティア先生に来てもらいたい」

＊五者：子ども・学校・家庭・地域・行政

## ＜地域と学校の連携・協働＞
南阿蘇村立久木野小学校

### 児童の声を生かした学校運営 :児童の社会参画

**○文通プロジェクト　一人暮らしの高齢者との文通**

児童運営委員会の発案に基づいた企画。児童が自主的に考え、話し合い目標を設定。参加者27名。地域社会に目を向けた発想自分たちにできることで、地域との新たなつながりづくり、手紙によるコミュニケーション。学校が支援し事前学習指導。

準備・環境が整えられ、児童の意欲が高められた。

→コロナ禍で外出できない地域の様子が見えづらい状況の中で、人々とつながる。

人生の先達者に生き方や心豊かさを学ぶ。相互に大切に思う気持ちが力の源泉に。

**○ふれあいサポーター**

地域のネットワークを活用したボランティア活動。

学校が活動を歓迎、推進。サポーターが関わりやすいよう環境を整備、関係を深める機会が多く持つ

昼休みや掃除の時間を児童と共に過ごす。サポーター12名（月～金曜日）写真入り名札、談話室、遊具は学校が用意。全校集会時に全児童に紹介

→一緒に遊び寄り添う。つながりが安心・安全な時間に。サポーターの積極的な参加によりふれあいを深め、思いやりの心を育む活動を発展した取り組みで交流を実施。

33

# 阿蘇市立内牧小学校　推進員：井口 法子

## ＜関係機関とともに育む児童の生きる力＞

所在地：熊本県阿蘇市内牧1376
児童数：341名(R3.5.1)

| | |
|---|---|
| 学校の特徴 | 平成31年4月、山田小と統合し新たな内牧小となり3年目を迎えた。平成27年に、コミュニティ・スクールの指定を受け、地域住民や保護者で編成する学校応援団と共に「内牧のよさを知り、ふるさとを愛する児童の育成」に取り組んでいる。 |
| 地域の特徴 | 古くから温泉町として発展した。平成24年の九州北部豪雨災害、平成28年の熊本地震を経験したことで、地域住民の防災に対する意識が大変高い。本年度より、学校運営協議会の提案で「青パトロール子供見守り隊」が結成された。 |
| 活動内容 | 先人の知恵に学ぶ～草原体験学習 |

全国の草原面積の半分を占める阿蘇。草をはむ赤牛の姿は阿蘇の原野によく似合う。「草原を知らずして、阿蘇は語れない」と先人は言った。内牧小は、平成25年から、4年生が"阿蘇の草原に学ぶ"ために草原体験学習を行っている。阿蘇外輪山大観望の原野で、阿蘇公民館内牧分館の関係者の指導のもと、原野に生える萱（かや）を材料に「草泊まり」を作り、そこに泊まる。夕食は、阿蘇市婦人会の皆さんに教えていただき災害時用非常食のカレーを食べる。2日目の乗馬体験や阿蘇草原保全活動センター（草原センター）の職員による草原学習も価値あるものだ。

〈草原体験活動の概要〉
- 実行委員会・・公民館関係者、草原センター職員、保護者、教職員で組織。準備や活動を打合せる
- 準　備　　・・公民館関係者を中心に材料の竹や茅（かや）を切る。数日天日干しした茅を集める。
- 当日の活動・・参加する児童は4年生。竹を使った骨組みづくりや茅かぶせの体験をする。
- 活動の意義・・先人の知恵を学ぶ。草原の存在価値を知る。世代間の交流を深める。など

「材料の茅」集め

草泊まり作り体験

乗馬体験

草原センター職員の草原学習

○充実した地域学校協働活動

◇伝統文化の継承～山田地区の虎舞

平成31年に、山田小と内牧小の統合を機に、山田地区の虎舞を継承することにした。地域の活性化という地域学校協働活動の本来の目的も達成されている。

◇農業体験活動

総合的な学習の時間を中心に行っている本校の特色ある活動である。シイタケ駒打ち、さつまいも栽培、大豆栽培、田植え・稲刈り、豆腐豆作りなどを行う。

【内牧分館長の永田さん】
「さまざまな活動に参加しました。元気いっぱいの子供たちとの活動を楽しんでいます。子供たちの健全な育成に携わりたいという気持ちもあり積極的に参加しています」

**成　果**

○草原体験学習をとおして、多くの関係団体とつながることができた。また、阿蘇市に所在する公的機関の「草原センター」の協力を得ることができている。
○地域住民の学校に対する関心は高く、授業支援に多数の協力を得ている。

**課　題**

市の教育施策の「魅力ある学級・学校づくり」の具現化に向けて、五者連携の取り組みを推進する。

【阿蘇市教育委員会　社会教育係】

# 西原村立小・中学校　今村 靖男

## ＜ふるさと塾「萌の子塾」から「志学塾」まで＞

所在地：熊本県阿蘇郡西原村
全校生徒数：児童396名、生徒223名

| | |
|---|---|
| 学校の特徴 | 西原村には2小1中の3つの学校がある。河原小は小規模特認制度が平成20年度から実施され、山西小から13名が通学して刺激を与える存在となり学校の活性化の役割を果たしている。山西小は学年2クラスと特別支援学級7クラスを擁し、インクルーシブな学級集団作りを基底にした教育活動が展開されている。西原中は学力向上推進と心身ともに健康な西中生徒の育成に尽力されている。 |
| 地域の特徴 | 役場から豊肥本線肥後大津駅まで車で15分、熊本県庁まで第2空港線経由で約20分、阿蘇くまもと空港までは約5分と交通の便は極めて良い。そのため従来からの農業を主体とする住民と宅地開発に伴い転入してきた住民とに大別できる地域である。平成28年の大地震で人口増加にブレーキが掛かったが、次第に回復傾向にあり、大津町・益城町・熊本市東部とのつながりを深めながら発展している村である。 |
| 活動内容 | 特徴的な活動・運営体制 |

「西原村ふるさと塾」は発達段階に応じた様々な体験活動を重ねることでふるさとの良さを知り、ふるさとに誇りを持つ児童生徒を育てることを目的として始められた。小3が「萌の子塾」（俵山周辺の生物観察や草原遊びを通してふるさとの宝物を探す）、小4が「河の子塾」（高校生と一緒に村内河川の水環境や水生生物を採取しての観察会）、小5が「風の子塾」（俵山の風車付近で自然エネルギーや風力発電の学習と凧揚げ体験）、小6が「山の子塾」（俵山登山と集団宿泊による交流学習）、中1で「里の子塾」（農業体験学習）、中2で「民の子塾」（職場体験学習）、中3で「志学塾」（生徒議会）という一連の流れである。

積み重ねられた「ふるさと塾」での学びの成果を、中3の生徒議会で町執行部に質問するという完成形は、本村の教育を推進していく上で、とって大きな財産となって、これからも引き継がれていく。

○（継続的活動）
キャンドルシェード作り　（西原中）
◇「西原村をあかりに」展示するキャンドルシェードを地域の人村やPTAの協力で中学1年生が作成して、俵山交流館前の里前の馬頭山に飾り幻想的な灯りで見る人を楽しませている。

○（教育課題の解決）
西原中学校「学校サポーター」（立ち上げ）
国語（書道）技術家庭科の実技（木工・情報・調理・裁縫）学習支援（朝自習・個別学習）登下校の見守り環境美化（運動場の除草・庭木の剪定）校内芸術ギャラリーへの作品展示協力 各種講話（人権・職業）その他皆さんの特技・資格を生かせる支援

○（多様な活動）
地域学校安全指導員が、学校の下校時間に合わせ、通称「青パト」に乗車し、児童生徒の交通安全や不審者対策に当たっている。

**成　果**

- 村内にある2つの小学校の交流の起点となる「ふるさと塾」は、地域の方々等の協力もあり、中学校に入学しても自然に打ち解けられ、中1ギャップの解消にも寄与している。
- 次代を担う生徒たちの生徒議会での質問は、役場各課内にもいい刺激を与えた。

**課　題**

- コロナ禍にあって、実施できない「ふるさと塾」があった。中学校の「農業体験」「職場体験」の学習は2年連続中止である。その時々のタイムリーな活動ができないまま進級、進学していくことは残念であり、その代替案などを考えていきたい。

# 白川村立白川郷学園

**これからは予測困難な未来であるが、何でもチャレンジできる未来でもある**

変化の激しい社会に「生きる力」を子どもたちに育む⇒「未来の担い手」
地域住民が自ら地域を創っていく「主体的な意識」への転換

「いつまでも住み続けたい白川村」を創る
ふるさと白川郷に夢と誇りを持った　白川っ子を育てたい（共通の願い）

活動目的の共有

毎年「熟議」を設け共通の願いを確認
地域も加わった持続可能な仕組みづくり　⇒「村民学」（教科）

「村民学」のひとつ「白川びと学」はキャリア教育として地域内外の人に学ぶ
「村民理科学」白川村を科学するテキスト

活動のポイント
- もうすでに「つながり」はできているが…地域住民の「無意識を意識化する」
- 共通の願いを持つ地域の団体がつながることで地域力の向上をめざす
- 担い手育てのための意図的な仕掛け
  ①一緒に活動　②声をかける　③役や場を与える　④大人が楽しむ真剣に

36

## 島根県浜田市「放課後あそび隊」の活動

**放課後の子どもたちを取りまく課題**
…思い切り体を動かして遊んでいない
異年齢集団での遊びが少ない
中学生が地域と関わる機会が少ない
地域で子どもを支える大人のネットワークが弱い

中学の総合的学習の体験活動で「放課後あそび隊」の活動をカリキュラム化
その後、毎月に2回程度、希望者が参加（部活動のない月曜日）
中学生は遊びの内容や運営、準備、片付け等を小学生と相談しながら実施
地域の大人も参加し、様々な世代が交流

小学生は自由な遊び方や自分たちが工夫する遊びができて、中学生とはおにいちゃん、おねえちゃんとの関係での遊びを楽しむ（少し先の目標）

中学生は自分たちを必要としてくれる体験「自己有用感」、判断力やコミュニケーション力を伸ばす体験になり、「ライフキャリア」として有効。「恩送り」ができるという意識

地域の大人にとっても活動が生きがいになり、子ども理解や中学生への評価向上につながる

これからの社会では世代をつなぐことが大切



## 剛志学府（伊勢崎市立境西中学校・境剛志小学校・剛志公民館）の活動

- 伊勢崎市の地域学校協働活動は中学校区ごと、地域の公民館を含む組織【学府連携協議会】
- 剛志学府でも小中学校と公民館が協力関係

【境西中学校】
・食育活動としての「お弁当の日」（子どもたちが自分のお弁当をつくる日）
家庭科の授業・農業高校・JA・農家・地元スーパーの協力
⇒地域の食材や食への関心・創意工夫・自立・達成感
・SDGsを意識してフードバンク活動や制服等のリサイクルを公民館と協働
⇒中学生としての地域貢献を学び発信する
・公民館の絵画教室のサポートは美術部部員が…地域の中でできることを

【境剛志小学校】
・6年生の英語の授業を地域の高校の国際科の生徒が実施
・校内の「ふるさと資料室」 運営員会が管理し日常的に小学生が触れられるような展示⇒「ふるさと学習」の推進



## 地域課題に学ぶ活動事例
### かまくら学協働メニュー（神奈川県立鎌倉高校）

**総合的学習の時間「かまくら学」 2つのカリキュラム**
・探求的学習「かまくら研究」
・市民活動との協働を体験的に学ぶ「協働メニュー」

**【協働メニューの活動の目的】**
1. 地域社会に目を向け、地域課題に気づく
2. 市民活動の果たす役割・市民の力、共助の大切さを知る
3. 活動のネットワークができ、市民同士が交流することで、自然に助け合う“きずな”ができることを知る

**【協働メニュー体験の効果】**
■若者⇒活動・人・背景を知る⇒社会課題を知る
⇒鎌倉【地域】は学びのフィールド
■地域⇒若者の活動への興味と参加を歓迎⇒協力団体の増加



## かまくら学協働メニュー（神奈川県立鎌倉高校）

| No. | 活動名・主催団体（活動内容） | No. | 活動名・主催団体（活動内容） |
|---|---|---|---|
| 1 | 出土品整理体験（史跡の保護活動） | 21 | デイ西かま（高齢者施設） |
| 2 | 鎌倉広町の森 田んぼの会（里山再生活動） | 22 | 鎌倉を美しくする会（落書き発見隊） |
| 3 | 鎌倉広町の森 畑の会（里山再生活動） | 23 | 御成町商店街ぼんぼり祭り（地域交流・活性化） |
| 4 | 鎌倉広町の森 森の会（里山再生活動） | 24 | あおぞら園（障害児施設の夏祭り） |
| 5 | 鎌倉広町の森 散策路の会（里山再生活動） | 25 | 鎌倉歩け歩け協会（健康作り活動と地域理解） |
| 6 | 鎌倉広町の森　自然観察の会（自然観察） | 26 | 今泉台自治町内会　夏祭り（地域交流・活性化） |
| 7 | かまくら緑の探偵団（子どもと自然保護） | 27 | かまくら笑ん座（障害児の就労支援活動） |
| 8 | 鎌倉広町の森 森のパトロール（自然保護） | 28 | ふらっとカフェ鎌倉（地域食堂活動） |
| 9 | 北鎌倉湧水ネットワーク（自然観察・環境保全） | 29 | ふらっとカフェ鎌倉　海の家（企業との協働） |
| 10 | NPO法人　山崎谷戸の会（里山再生活動） | 30 | 防災ハイキング（防災・地域課題解決） |
| 11 | 玉縄城址まちづくり会議（史跡の保存） | 31 | 游風（循環型社会実現のための活動） |
| 12 | 鎌倉風致保存会（ナショナルトラスト活動） | 32 | 津波が来る前に高い所に逃げる プロジェクト（防災） |
| 13 | 保育室みつばち NPO法人（子育て支援） | 33 | 鎌人いち場（まちづくり・地域交流） |
| 14 | 鎌倉てらこや（子どもの学習支援等） | 34 | 国宝史跡研究会（史跡研究） |
| 15 | ファミリーサポートセンター （子育て支援） | 35 | 鎌倉考古学研究所（歴史研究・保全活動） |
| 16 | 鎌倉静養館（高齢者施設） | 36 | 鎌倉景観研究会（自然保護活動） |
| 17 | グループホーム　虹の家（高齢者施設） | 37 | かまくら女性史の会（歴史研究） |
| 18 | グループホーム　ふぁいと山崎の里 納涼祭 | 38 | 鎌倉市ﾎｰﾑﾍﾙﾌﾟｻｰﾋﾞｽ連絡会（高齢者福祉） |
| 19 | グループホーム　華花（高齢者施設） | 39 | かまくら認知症ﾈｯﾄﾜｰｸ（高齢者福祉） |
| 20 | デイ　華花（高齢者施設） | 40 | 鎌倉リサイク推進会議（環境保護） |

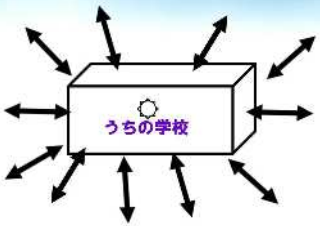
# NPO見本市in深沢高校

- 藤沢市市民活動推進センターと高校が連携（1年次に全員必修で実施）
- センター登録のボランティア団体（12団体）がブースを開いて活動を紹介し、高校生は興味を持った団体ブースで活動紹介や活動体験を行う
- ボランティア活動や市民活動の意義を学び、活動する方々の思いを知る
- 活動紹介、体験をスタンプラリー形式に回る

【生徒たちの感想から】

- ボランティア活動への参加のきっかけにもなる
- 生徒たちの中には将来の職業選択の参考にできるという反応もある
- これから日本の社会に必要な活動だと思った。

41




あなたの学校は地域のつながりをどこまで広げていますか？

**地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えることで、**
**地域がつながり、新しい地域をつくっていく**

**ご清聴ありがとうございました**

42